

# 企業ニュース 不二製油グループ本社

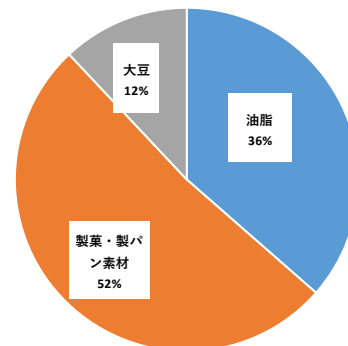
(東証1部：2607) <http://www.fujioilholdings.com>

作成者：兵藤三郎

## 業務用チョコレート世界第3位を買収

◇19.3期売上高構成比

1950年、伊藤忠（8001）の全額出資により不二製油を設立。1963年、洋生菓子用チョコレートの販売を開始した。1967年、大豆たん白事業を開始。2015年、持ち株会社体制に移行し、現在の社名に商号変更した。2019年1月28日（米国時間）業務用チョコレート世界3位の米国Blommer社を買収し、20.3期より製菓・製パン素材セグメントを業務用チョコレートと乳化・発酵素材（クリーム・マーガリン・フィリング・調製品など）に分離した。19.3期の事業セグメントは右図の通り。同買収は、当社が目指す環太平洋地域でのプレゼンス向上に寄与し、両社のシナジー効果として原料（カカオ豆など）の調達力強化や生産効率化などを追求する。チョコレート、大豆など健康基軸で需要の高まりが見込める事業をもち、B2B2C市場での存在感がある企業として、中期的な成長を期待したい。



(出所) 不二製油グループ本社資料より  
CAM作成

## 19.3期の業績は低迷したが、20.3期以降は再成長フェーズに移行

19.3期の連結業績は売上高が3,008億円、前期比2%減、営業利益が185億円、同10%減。中国での製菓・製パン素材事業は伸長したが、自然災害や猛暑の影響による国内向け乳化・発酵素材の低迷、米国での寒波・ハリケーンによる工場操業停止や国内の大豆たん白食品工場改修に伴う販売減少などの影響により減収となった。営業利益は買収費用などの影響で減益だが、特殊要因を除けば増益を確保した。国内の油脂事業の採算改善などが寄与した。営業利益は、19年2月に行った修正予想からは5億円の上振れで着地した。

20.3期連結業績の会社計画は、売上高が4,300億円、前期比43%増、営業利益が240億円、同30%増。Blommer社連結に伴うグローバルでの業務用チョコレート拡販効果（11億円の増益計画）が寄与しよう。Blommer社のEBITDAは5,900万ドル（約64億9千万円）で、カカオ相場変動などのリスク要因を織り込んだ計画であろう。加えて、前期計上した一時的費用の反動減や大豆事業などでの能力増強効果が増益貢献しよう。減価償却方法の変更も8億円の増益要因。

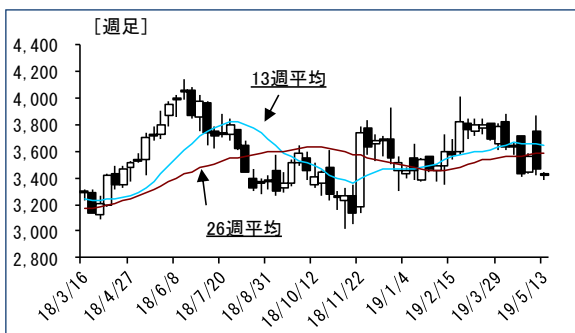
### [株価動向・投資判断]

今回の買収に伴うシナジー効果による中期的な成長が見込めよう。今期は大幅増益計画だが、上振れ余地もあり、押し目を狙いたい銘柄。

<2607 不二製油G 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	307,645 ( 5)	20,481 ( 4)	19,983 ( 1)	13,742 ( 14)	159.9	48.00
19.3	300,844 ( ▲2)	18,525 ( ▲10)	18,176 ( ▲9)	11,582 ( ▲16)	134.8	50.00
20.3 予	430,000 ( 43)	24,000 ( 30)	22,000 ( 21)	15,200 ( 31)	176.8	54.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価 (2019/5/13)	3,420 円
年初来高値 (高値日)	4,015 円 (19/2/20)
同 安値 (安値日)	3,350 円 (19/2/7)
予想 P E R (20.3 予)	19.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,819.7 円
P B R	1.88 倍
予想配当利回り	1.58 %
(1株当たり配当金54.00円)	
R O E (19.3)	7.3 %
発行済み株式数	8,757 万株